未来へつなぐ平和のバトン

氷見高等学校一年　山﨑琴子

平和のバトン。私はこの言葉に少し考えさせられた。その記事は「被爆から七十年、平和のバトンを受け継ぐ時だ。」と、核兵器廃絶を世界に呼びかける私と同じ高校生である高校生平和大使の方々について書かれていた。そのうちの一人の方は「四年前に亡くなった祖父から託された平和を願う思いを広めたい」と決意を新にした。この記事の下には（見出し）その方の祖父が書かれた「平和への誓い」があった。それを読み、私はひどく胸を打たれた。

そこには七十年前のこの日の地獄のような背景とその実相を世界中に語り続けることを心から誓うと書かれていた。被爆者が今でもこんなに努力をして平和を守ろうとしているんだと思うと自分がとても情けなくなった。かと言って、自分にできることが何一つ思いつかなかった。語り継ぐことはできるが、はたしてそれだけで平和のバトンが守っていけ

るのか分からなかった。被爆者の平和への思いや当時のことについて書かれた教科書や本は何回も見たことはある。しかし、私の場合「今、戦争が起きるわけもないし。」と無感じな時が多いかもしれない。今思うとそれは、とても最低なことだ。いつ戦争がまた起きるかも分からないし、世界の他の国では今も戦争の真最中だ。

私はもう一度考え直してみた。もちろん一人や二人だけの思いだけで戦争が終わるわけがない。それでも、平和を願っている方々がたくさんいる。そう考えると平和のバトンというものが少し見えた気がした。

もしも世界中の人々が戦争について考え直し、見つめ直したならば、戦争は無くなり、平和が見えてくるだろう。けれど、それは今となっては難しい。だからこそ、「平和のバトン」があるのだと私は思う。次の世代にバトンをつなぐことで戦争に対する思いが少し大きく変わるのではないだろうか。

北日本新聞八月十日四面へ
「平和のバトン継ぎ誓う」の記事

そもそも、戦争とはなんだろうか。争って傷つけ、勝って。一体、何につながるのだろうか。財産が手に入るとしても、それだけが戦争者にとっての平和な生活になるのだろうか。私も分からないが、平和といえるように、なるには、世界中が一つになることだと思う。

私たちが今、できることは何だろうか。それは、まず、戦争についてもう一度深く考え直し、平和を目指す思いを持つことだと私は思う。テレビや新聞、本などで目にする情報に目を背けず、考えること。小さいことでもいいから自分にできることを探し、それをするだけでも平和のバトンは守ってゆけると思う。自分たちが歩んでいかなければいけない人生を少しでも平和に近づけたらいいと私は思う。だから、私も平和のバトンを受け継ぎたい。